



令和4年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和3年11月10日

上場会社名 株式会社 御園座 上場取引所 名
 コード番号 9664 URL http://www.misonoza.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮崎 敏明
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員総務経理部長 (氏名)高木 真人 (TEL) 052-222-8202
 四半期報告書提出予定日 令和3年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和4年3月期第2四半期の業績(令和3年4月1日~令和3年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
4年3月期第2四半期	1,006	—	△263	—	△268	—	△143	—
3年3月期第2四半期	64	△94.5	△158	—	△160	—	△400	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
4年3月期第2四半期	△28.91	—
3年3月期第2四半期	△80.50	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
4年3月期第2四半期	6,241	3,968	63.6
3年3月期	6,090	4,110	67.5

(参考) 自己資本 4年3月期第2四半期 3,968百万円 3年3月期 4,110百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
3年3月期	—	—	—	0.00	0.00
4年3月期	—	—	—	—	—
4年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和4年3月期の業績予想(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	—	△270	—	△280	—	220	—	44.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	4年3月期2Q	4,984,500株	3年3月期	4,984,500株
② 期末自己株式数	4年3月期2Q	5,144株	3年3月期	5,124株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	4年3月期2Q	4,979,362株	3年3月期2Q	4,979,376株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
3. その他	8
(継続企業の前提に関する重要事象等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、ワクチン接種の普及は進んだものの、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発出されたことにより、個人消費を中心に依然として厳しい状況で推移いたしました。

当社におきましては、感染症予防策の徹底、座席数の制限などの対策を継続し、その中で引き続きお客様のニーズに合わせた公演の実現、観客動員の維持を図りながら、9月のミュージカル公演の中止を除く、予定していた大半の公演を上演することができました。

今後につきましても、感染拡大の防止策を徹底し、社会経済活動のレベルが段階的に回復する中、まだ当面は厳しい状態が続くものと見込まれますが、徐々に公演数及び観客動員の拡大を図りながら、お客様に喜んで頂ける公演を増加させていく予定であります。

当社は、以下の通り、令和3年4月から9月までに公演を14種類、上演日数として88日間、上演回数として133回（前年同期17回）の実施を致しました。

〈当第2四半期累計期間の上演実施作品〉

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
市川海老蔵特別公演	4月10日～20日	11	15
ミュージカル『ウェイトレス』	4月29日～5月2日	4	5
ミュージカル『ゴヤ - GOYA-』	5月7日～9日	3	5
滝沢歌舞伎 ZERO 2021	6月2日～27日	26	38
ミュージカル『17 AGAIN』	7月1日～11日	11	14
細川たかし特別公演	7月16日～21日	6	10
氷川きよし劇場コンサートツアー2021	7月24日～25日	2	4
山内恵介コンサート	7月27日～28日	2	3
鶴瓶御園座独演会	7月30日～31日	2	2
よしもと祭り10公演	8月3日～8日	6	11
夏休み!!! 吉本新喜劇&バラエティー公演	8月10日～15日	6	11
梅沢富美男特別公演 泉ピン子特別出演	8月19日～24日	6	10
ブロードウェイミュージカル『ピーターパン』	8月28日～29日	2	3
歌ネタ四銃士爆笑浪漫飛行	9月19日	1	2
合計		88	133

（上演日数には休演日も含みます）

〈公演中止となった当第2四半期累計期間の上演予定作品〉

公演名	上演予定期間	上演予定日数	上演予定回数
ブロードウェイ・ミュージカル『エニシング・ゴーズ』	9月4日～12日	9	11

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は、10億6百万円（前年同期は6千4百万円）となりました。

利益面では、営業損失2億6千3百万円（前年同期は営業損失1億5千8百万円）、経常損失2億6千8百万円（前年同期は経常損失1億6千万円）、四半期純損失1億4千3百万円（前年同期は四半期純損失4億円）となりました。

なお、当第2四半期累計期間に予定していた9月のミュージカル公演が中止となったことから、当該公演にかかる制作費・キャンセル料等を公演中止損失として特別損失に計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は、7億2千9百万円となり、前事業年度末に比べ2億7千9百万円の増加となりました。この主な要因は、現金及び預金が1億5千万円、未収入金が1億8千万円増加したことによるものであります。固定資産の残高は、55億1千2百万円となり、前事業年度末に比べ1億2千8百万円の減少となりました。この主な要因は、建物及び構築物が6千万円、機械及び装置が4千5百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、62億4千1百万円となり、前事業年度末に比べ1億5千1百万円の増加となりました。

(負債の部)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は、8億2千8百万円となり、前事業年度末に比べ4億1千1百万円の増加となりました。この主な要因は、短期借入金が増加したことです。短期借入金は3億円、買掛金は3千1百万円、前受金は4千7百万円増加したことによるものであります。固定負債の残高は、14億4千5百万円となり、前事業年度末に比べ1億1千7百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が増加したことです。長期借入金は1億1千4百万円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、22億7千3百万円となり、前事業年度末に比べ2億9千3百万円の増加となりました。

(純資産の部)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、39億6千8百万円となり、前事業年度末に比べ1億4千2百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が増加したことです。利益剰余金は1億4千3百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年3月期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点において令和3年5月14日付「令和3年3月期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和3年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	240,174	390,714
売掛金	46,449	22,393
貯蔵品	1,256	1,267
未収入金	90,334	270,722
その他	72,251	44,811
貸倒引当金	△739	△739
流動資産合計	449,729	729,170
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,577,042	2,516,318
機械及び装置（純額）	720,998	675,504
土地	2,124,656	2,124,656
その他	133,907	119,563
有形固定資産合計	5,556,605	5,436,042
無形固定資産	31,814	26,893
投資その他の資産		
投資有価証券	39,075	39,947
その他	13,108	9,444
投資その他の資産合計	52,183	49,391
固定資産合計	5,640,603	5,512,327
資産合計	6,090,332	6,241,498

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和3年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	67,535	99,209
短期借入金	-	300,000
1年内返済予定の長期借入金	205,831	220,825
未払金	22,676	24,564
未払法人税等	7,033	11,448
前受金	99,280	146,540
賞与引当金	-	1,291
その他	14,406	24,221
流動負債合計	416,762	828,099
固定負債		
長期借入金	1,254,169	1,139,175
繰延税金負債	276,857	276,857
退職給付引当金	4,806	7,199
その他	26,882	22,067
固定負債合計	1,562,716	1,445,299
負債合計	1,979,478	2,273,399
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,271,937	2,271,937
資本剰余金	2,137,621	2,137,621
利益剰余金	△267,062	△411,010
自己株式	△39,674	△39,716
株主資本合計	4,102,823	3,958,832
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,031	9,266
評価・換算差額等合計	8,031	9,266
純資産合計	4,110,854	3,968,099
負債純資産合計	6,090,332	6,241,498

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)
売上高	64,293	1,006,578
売上原価	85,883	979,309
売上総利益又は売上総損失(△)	△21,589	27,269
販売費及び一般管理費	137,163	290,887
営業損失(△)	△158,753	△263,618
営業外収益		
受取配当金	1,096	1,026
保険返戻金	-	2,502
受取保険金	2,543	-
その他	5,464	1,357
営業外収益合計	9,104	4,886
営業外費用		
支払利息	9,129	9,285
その他	1,925	889
営業外費用合計	11,054	10,175
経常損失(△)	△160,703	△268,907
特別利益		
補助金収入	-	229,263
特別利益合計	-	229,263
特別損失		
公演中止損失	68,650	71,645
臨時休業等による損失	170,988	31,806
投資有価証券評価損	-	363
特別損失合計	239,638	103,815
税引前四半期純損失(△)	△400,341	△143,460
法人税、住民税及び事業税	488	488
法人税等合計	488	488
四半期純損失(△)	△400,830	△143,948

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△400,341	△143,460
減価償却費	125,418	125,496
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,504	1,291
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	235	2,393
受取利息及び受取配当金	△1,096	△1,026
保険返戻金	-	△2,502
受取保険金	△2,543	-
支払利息	9,129	9,285
投資有価証券評価損	-	363
公演中止損失	68,650	71,645
臨時休業等による損失	170,988	31,806
補助金収入	-	△229,263
売上債権の増減額 (△は増加)	95,241	24,056
棚卸資産の増減額 (△は増加)	408	△10
仕入債務の増減額 (△は減少)	△195,045	31,673
未収消費税等の増減額 (△は増加)	22,117	25,252
前受金の増減額 (△は減少)	47,880	47,260
その他	△147,186	△9,867
小計	△209,647	△15,606
利息及び配当金の受取額	1,096	1,026
保険金の受取額	2,543	-
利息の支払額	△9,131	△9,289
公演中止による支出	△68,650	△68,790
臨時休業等による支出	△55,575	△10,078
補助金の受取額	-	49,574
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	33,732	3,368
営業活動によるキャッシュ・フロー	△305,631	△49,795
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△690	-
その他	1,720	4,629
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,030	4,629
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	500,000
短期借入金の返済による支出	-	△200,000
長期借入金の返済による支出	△100,000	△100,000
リース債務の返済による支出	△4,190	△4,252
その他	-	△42
財務活動によるキャッシュ・フロー	△104,190	195,705
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△408,791	150,539
現金及び現金同等物の期首残高	884,205	240,174
現金及び現金同等物の四半期末残高	475,414	390,714

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる当第2四半期累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

(時価の算定に関する会計基準の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しなかったものの、当社は感染対策の徹底を図り、9月のミュージカル公演を中止した他は、当第2四半期累計期間において予定していた大半の公演を上演することが出来ました。これにより、当第2四半期累計期間の売上高は10億6百万円と前年同期に比較して大きく改善いたしましたが、当第2四半期累計期間においても営業損失及び四半期純損失を計上したことで、連続赤字となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が続いております。

このような状況の中、9月30日の緊急事態宣言解除後に予定されている公演についても、引き続き感染対策を十分に行ったうえで継続しております。また、当第2四半期会計期間末の現金及び預金の残高に加え、資金計画に基づき取引金融機関と協議を行い、適切に運転資金を確保する計画を実行しており、当該事象の解消が十分実現できるものと考えております。

以上の通り、重要事象等の解消は可能と考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」は記載していません。